

国際化学肥料ニュース（2017年11月）

肥料業界の2017年11月動態

- * 10月25日、インドNFL社は尿素入札を公告し、30～40万トンを購入する予定である。10月31日開札した結果、13社応札、応札量69.4～72.4万トン、最低応札価格がCFR東海岸299.98ドル/トンである。価格があまりにも高騰しすぎるため、11月7日NFL社は今回の尿素入札の取消しを決定し、入札自体をキャンセルした。

- * アメリカのMosaic社は今年の塩化加里生産と販売計画が達成したと宣言し、10月から来年春までカナダSaskatchewan州にあるEsterhazy加里鉱山の大规模点検修繕を行うと発表した。これにより約210万トン塩化加里の減産となる。ただし、Esterhazy加里鉱山のK3鉱山の開発が順調に進み、2018年夏に完成し、稼動するとも発表した。

- * アメリカのMosaic社はフロリダ州にあるPlant Cityりん安工場を閉鎖すると発表した。閉鎖の理由は環境問題でフロリダのりん鉱石採掘が不可となり、モロッコからりん鉱石の輸入に依存し、原料コストが大幅に上がること、工場が老朽化して、設備更新に膨大な費用が必要であること、今年9月に2度もハリケーンの被害を受け、再建に時間と費用がかかることである。Plant Cityりん安工場の閉鎖により、Mosaic社のりん安生産能力が約170万トン/年減少する。

- * 中国国営企業の中国化学肥料集団はモロッコOCP社と契約し、OCP社のりん鉱石とDAPの中国国内輸入販売専属代理店となる。契約期間は2017～2021の5年間で、約500万トンのりん鉱石とDAPを輸入販売する見通しである。

- * ドイツのK+S社は2020年までに加里肥料、苦土肥料と塩製品の販売部署を統合すると発表した。現在、加里肥料、苦土肥料と塩製品の3部門がそれぞれ販売部署を持ち、別々に販売活動をしている。統合により、製品販売コストが年間約1.5億ユーロを削減することができるかと試算している。

- * ロシアのAcron社はパリに販売子会社を設立し、それを拠点にしてフランスおよび周辺国に尿素硝安液肥（UAN）とその他の化成肥料を販売する。Acron社は世界有数の窒素と化成肥料メーカーで、2017年EU地域での尿素硝安液肥（UAN）販売量が約40万トンである。フランス子会社の設立によりEU地域での販売力を増強し、市場影響力の拡大を目論んでいる。

- * ロシアの主要りん酸肥料メーカーPhosAgro社とサウジアラビアのMa'aden社は世界圏内のりん酸肥料協力協定を結んだ。当該協定はサウジアラビア国王がロシアを訪問する際に締結したものである。主な内容はりん酸肥料技術の共有と販売協力によりりん酸肥料の価格安定と確実供給を目指すものである。
- * 10月からりん安の国際価格が上昇し、この2か月でりん安のFOB価格が約10%上がった。その原因は中国の環境検査により稼働率が下がり、原材料の高騰もあり輸出への供給不足である。商社は足りない中国品を補うため、モロッコ、チュニジアとサウジアラビア品に殺到した。最新の情報によれば、サウジアラビアからオーストラリアに輸出予定の3万トンDAPとMAPのFOB価格が410ドル/トンに達し、モロッコOCP社とチュニジアGCT社はEU地域に輸出するDAPもFOB価格400~410ドル/トンを提示した。アメリカMosaic社も11~12月のDAP価格をFOB366ドル/トンに設定した模様。
- * カナダ税関の統計データによれば、今年1~9月の塩化加里輸出量が24%増の1,447万トン、2014年以降最高を記録した。主な輸出先はアメリカが46%増の779万トン、ブラジルが23%減の167万トン、中国が84%増の115万トン、インドが57%増の108万トン、インドネシアが増減なしの98.4万トン、マレーシアが9%増の54.8万トン。タイが4%増の27.5万トン、ベトナムが37%増の19.2万トンである。
- * 大手加里肥料メーカーが年内の販売計画を達成したことに加え、塩化加里の値上げを目論んで、11月に入ってから一斉に減産に入った。ベラルーシのBelaruskali社は11月18日から12月9日まで1か所の加里鉱山を停止し、カナダのPotashCorp社も所有のAllan鉱山を11月19日から10週間、Lanigan鉱山を12月3日から8週間の点検に入ると発表した。
- * ブラジルからの報道によると、今年1~10月の塩化加里輸入量が史上最多の813万トンに達し、年間塩化加里輸入量の新記録がほぼ確実となる。10月末現在の大粒塩化加里CFR価格が280~285ドル/トンであるが、11月に入ってからCFR価格が上昇し、290~300ドル/トンを提示するところもある。
- * ノルウェーのYara社はブラジルVale社からブラジルCubatao市にある化成肥料工場を買収すると発表した。当該工場はブラジル最大の化成肥料工場で、生産能力は年間アンモニア20万トン、硝酸60万トン、りん酸肥料98万トン、従業員約1900名、2016年に約130万トンの窒素肥料とりん酸肥料を生産した。買収金額が2.55億ドル、2018年下半期に完了する予定である。

2016年末、アメリカのMosaic社が25億ドルでVale社の化学肥料部門を買収する際に、ブラジル政府は独占禁止法に従い、Cubatao肥料工場をMosaic社以外の第3者に売却することを買収承認条件の一つとして提示した。

- * 中国税関の速報によれば、2017年10月中国の化学肥料輸出量197万トン、金額5.29億ドル。一方、10月の化学肥料輸入量83万トン、金額2.12億ドル。

- * カナダのCanpotex社、チリのSQM社、ロシアのUralkali社は2018年3月までの塩化加里販売計画を完全達成したとそれぞれ発表した。また、Canpotex社とSQM社は12月1日から来年2月末日まで塩化加里の新規注文を受付けしないとも発表した。
塩化加里販売旺盛の背景は、2017年の世界的加里需要が非常に旺盛で、ブラジル1～10月の塩化加里輸入量が800万トンを超え、新記録を作った。インド4～10月の塩化加里輸入量が約25%増加し、韓国も1～10月の塩化加里輸入量が10%増加した。11月末現在、南米と東南アジアの塩化加里価格は高値安定の状態が続いている。

- * 11月7日にインドNFL社の尿素入札がキャンセルされた後、尿素の国際市況が大幅に値下げに転じた。11月7日から11月30日の間に国際市場価格が50～60ドル/トンも下がった。特に南米の値下げが激しく、CFRブラジルが250ドル/トンになった。
また、イラン国営Pardis社は新たに3つの尿素生産ラインを稼働させ、大粒尿素3000トン/日の増産を実現した。12月末までにインドが新たに尿素入札を行わない場合は、尿素の国際価格（FOB価格）が210ドル/トンまで下がる可能性がある。

大手各社の営業業績

- * イスラエルICL社は第3四半期の業績を公表した。7～9月の加里肥料生産量が7.1%減の118万トン、販売量が0.8%減の139万トン、りん鉱石生産量が30%減の110万トン、りん酸肥料生産量が54.1%減の49万トン、販売量が16.7%減の56.4万トンであった。但し、肥料価格の上昇、付加高い製品の販売とコストの削減に功を奏し、売上高14.4億ドル、純利益が8400万ドルを確保できた。

- * ロシアのAcron社は1～9月の業績を公表した。化学肥料生産量が19%増の450万トン、史上最高となった。その内訳はアンモニア生産量が23%増の190万トン、尿素生産量が19%増の58.1万トン、尿素硝酸液肥の生産量が14%減の71.9万トン、化成肥料生産量が46%増の210万トン。

- * ロシアのPhosAgro社は第3四半期の業績を公表した。化学肥料生産量が約19%増の210万トン、販売量が10%増の170万トン、その内訳は窒素肥料販売量31万トン、

MAP 販売量 64 万トン、NPK 化成肥料販売量 75 万トン。しかし、価格の下落とルーブル為替レートの上昇により、ドルベースの売上高と純利益が下落した。1～9 月の売上高が 8%減の 23.1 億ドル、純利益が 57%減の 3.6 億ドル。

- * ロシア最大の肥料メーカーEuroChem 社は第 3 四半期の業績を公表した。りん鉱石販売量が 10%減の 155 万トン、尿素販売量が 10%減の 59.2 万トン、硝安販売量が 4%増の 39.8 万トン、尿素硝安液肥 (UAN) 販売量が 38%減の 22.6 万トン、化成肥料販売量が 28%増の 74.5 万トン、硝安販売量が 26%減の 25.9 万トン、硝酸カルシウムアンモニウム販売量が 10%減の 23.1 万トン、DAP 販売量が 17%減の 27.2 万トン、MAP 販売量が 6%増の 31.1 万トン、アンモニア販売量が 36%減の 1.7 万トン。化学肥料販売量が減っても、販売価格の上昇で、売上高が 11%増の 11.7 億ドル、粗利が 10%増の 4.07 億ドル、EBITDA (利払い・税金・償却前利益) が 9%増の 2.54 億ドル。
- * ドイツの K+S 社は第 3 四半期の業績を公表した。売上高が 6%増の 7.27 億ユーロ、EBITDA (利払い・税金・償却前利益) が 37%増の 7700 万ユーロ。肥料部門では塩化加里販売量 67 万トン、売上高 1.521 億ユーロ、硫酸加里と硫酸苦土など特殊肥料販売量 56 万トン、売上高 2.056 億ドル。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ロシアの PhosAgro 社は Cherepovets 市に建設中のアンモニアと尿素工場が完成し、試運転に入った。12 月または 2018 年 1 月に正式稼動する。当該工場の生産能力はアンモニア 76 万トン/年、尿素 50 万トン/年である。

その他

- * 11 月 6 日、中国政府はカナダの PotashCorp 社と Agrium 社の合併について、条件付きで同意した。同意の条件は合併後、PotashCorp 社が持つイスラエル ICL 社、ヨルダン APC 社及びチリ SQM 社の株式を売却すること、同業加里メーカーの株式を取得しないことである。
- * 中国政府は 2018 年 1 月から環境保護の名目で、養殖頭数牛 50 頭、豚 500 頭、鶏 5000 羽を超えた養殖場に牛糞税、豚糞税と鶏糞税を徴収する。経済発展に伴い中国では家畜家禽の養殖数が急増し、その糞尿が環境問題となっている。家畜家禽養殖場から年間約 38 億トンの糞尿等が排出されるが、肥料として利用されたのは 60%未満で、残りの廃棄物が無処理のまま河川などに排出され、環境と衛生に悪影響を与える。2017 年上半年期だけで、中国政府は家畜家禽養殖禁止地域 4.9 万か所、約 63.6 万 km² を指定し、約 21.3 万軒の養殖場を閉鎖または強制移転させた。